

米国 財価格の安定を示すナンバー(06年7月生産者物価)

発表日：06年8月15日(火)

～原材料価格の上昇も企業は生産性の向上で吸収～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	最終財		生産者物価 (Producer Price Indexes)				中間財		原材料		<参考> 輸入物価		WTI
			コア		エネルギー		コア		コア		輸入物価		
05/07	+0.8	(+4.7)	+0.3	(+2.8)	+3.9	+1.0	+0.1	+5.1	+0.6	▲0.2		58.9	
05/08	+0.5	(+5.3)	+0.0	(+2.6)	+3.0	+0.5	▲0.1	+3.5	+4.6	+0.1		65.0	
05/09	+1.4	(+6.9)	+0.2	(+2.6)	+5.4	+2.3	+1.0	+10.5	+5.6	+0.9		65.5	
05/10	+0.8	(+5.9)	▲0.3	(+1.8)	+4.3	+3.0	+1.4	+5.7	▲1.5	+1.0		62.3	
05/11	▲0.5	(+4.4)	+0.1	(+1.7)	▲3.1	▲1.3	+0.4	▲1.4	+2.4	▲0.1		58.2	
05/12	+0.7	(+5.4)	+0.0	(+1.4)	+2.4	+0.3	+0.4	▲3.5	+1.9	+0.0		59.4	
06/01	+0.3	(+5.6)	+0.4	(+1.3)	+0.1	+1.0	+0.9	▲0.8	▲0.2	+0.3		65.3	
06/02	▲1.2	(+3.9)	+0.3	(+1.7)	▲4.5	▲0.5	+0.3	▲8.4	+3.1	▲0.7		61.7	
06/03	+0.4	(+3.6)	+0.2	(+1.7)	+1.5	+0.2	+0.4	▲2.6	+1.3	▲0.3		62.9	
06/04	+0.9	(+4.0)	+0.1	(+1.5)	+4.0	+0.7	+0.2	+1.3	+4.1	+0.1		71.8	
06/05	+0.2	(+4.5)	+0.3	(+1.5)	+0.4	+1.1	+1.1	+2.0	+6.2	+0.7		73.8	
06/06	+0.5	(+4.9)	+0.2	(+1.9)	+0.7	+0.7	+0.8	▲1.7	+1.7	+0.4		73.9	
06/07	+0.1	(+4.2)	▲0.3	(+1.3)	+1.3	+0.5	+0.7	+3.1	+1.3	▲0.1		74.5	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

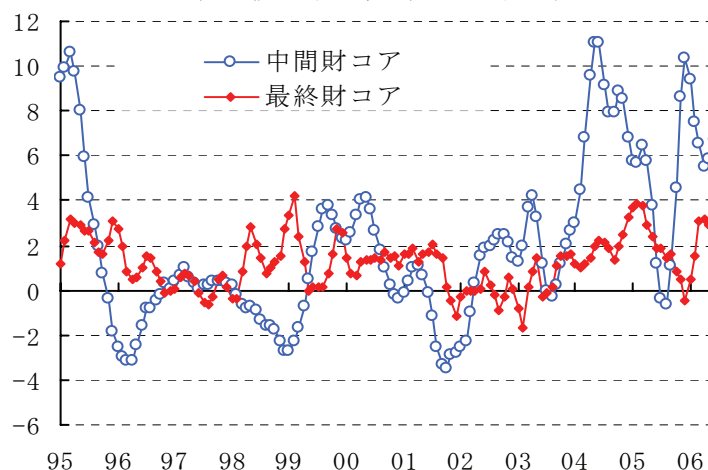
(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアは前月比▲
0.3%と市場予想に
反し下落

06年7月の生産者物価(最終財)は、食料の下落によって前月比+0.1%と市場予想の同+0.2%を下回った。食料品は同▲0.3%とマイナスに転じた。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、同▲0.3%と市場予想の同+0.2%に反し下落し、前年同月比でも+1.3%と減速した。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率をみると、中間財(コア)が昨年12月をピークに5月まで低下傾向を辿ったため、4ヵ月遅れて影響を受ける最終財(コア)は7月に同+1.8%(同+2.4%)と鈍化した後も、9月にかけて低下傾向を辿ると予想される。加えて、2004年以降中間財と最終財での変化率は大きく乖離しており、競争の激化や生産性の向上等を背景に、川中である中間財から川下である最終財への波及は限定的なものにとどまっていることから、最終財(コア)は落ち着いた状態にあると判断される。

(%) 生産者物価(最終財)の推移
(3ヶ月移動平均、3ヶ月前対比年率)



資本財、消費財コアともに下落に転じた

最終財段階でのカテゴリ別の動向をみると、食品関連では生卵、加工七面鳥、魚と甲殻類、果物、ソフトドリンク、加工野菜・果物等の下落によって、食品価格は前月比▲0.3%（前月同+1.4%）とマイナスに転じた。

エネルギーは前月比+1.3%（同+0.7%）と小幅加速した。ヒーティングオイルが同▲2.7%（同+6.5%）とマイナスに転じ、ガソリンが同+0.7%（同+6.3%）と減速した。一方、天然ガスが同+0.9%（同▲3.7%）、家庭用電力が同+1.8%（同▲2.8%）とプラスに転じた。

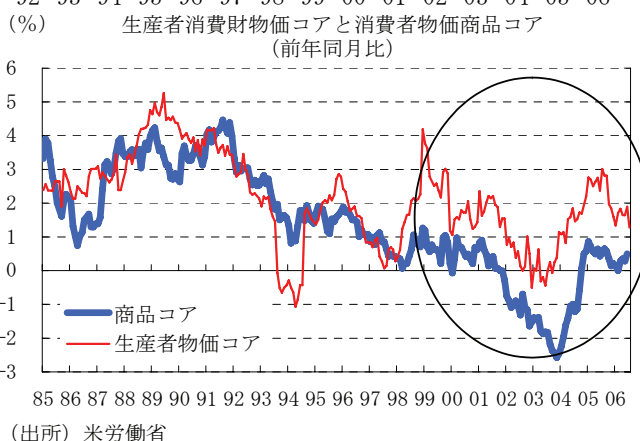
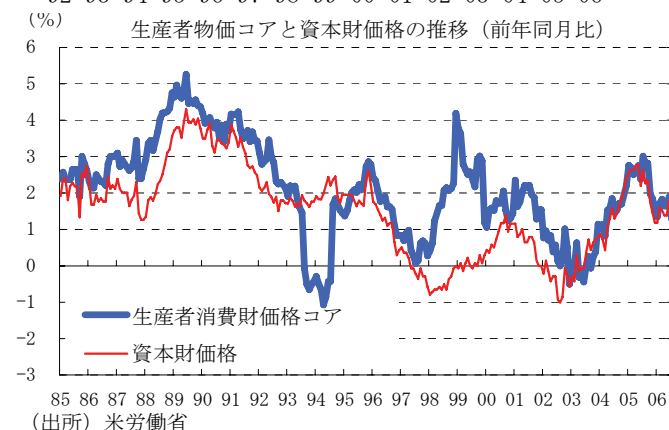
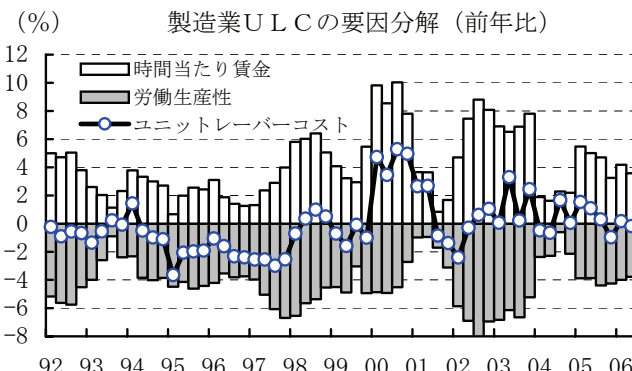
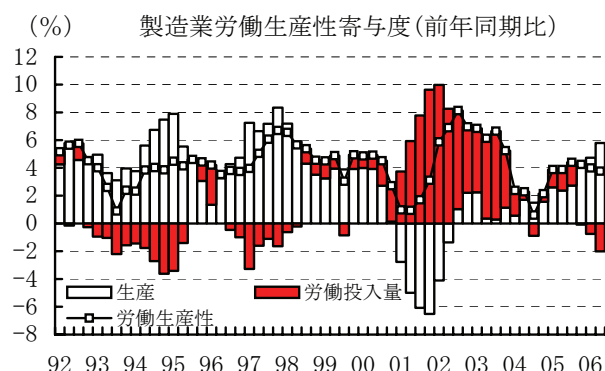
消費財（エネルギー・食料品を除く）は前月比▲0.3%（前月同+0.2%）と下落した。男性用衣服、乗用車価格（7月前月比▲0.8%、6月同+0.9%）がマイナスに転じ、衛生紙、家庭用電化製品（同▲2.0%、同▲1.5%）のマイナス幅が拡大した。

資本財は前月比▲0.2%（同+0.3%）と下落した。資本財では、停電等によって需要の拡大した変圧器・発電機がプラス幅を拡大し、競争の激しいコンピューターが前月の大幅な下落によって低下幅を縮小したもの、軽トラック、鉄道設備、民間航空機、鉱業機械、ポンプ・コンプレッサーが下落した。

生産者物価（最終財）コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

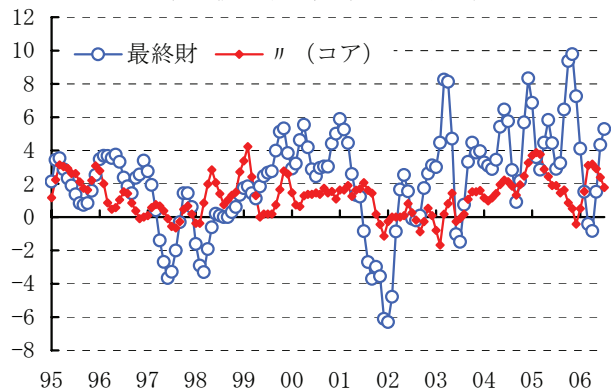
地政学的リスクや世界的な景気拡大に伴う供給不足懸念等を背景に商品価格、エネルギー価格が再び上昇している。この動きを受け、中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が2月をボトムに上昇していること、川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で7月に+53.0%（前月+52.1%）と加速したことから中間財コア（7月同+9.2%）は上昇ペースを速めよう。

もともと、原材料、中間財で上昇ペースが加速しても、製造業では①売上の増加による数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇が続こう。

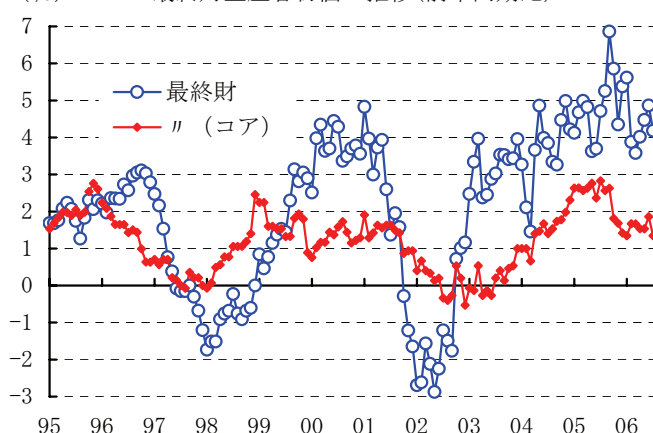


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

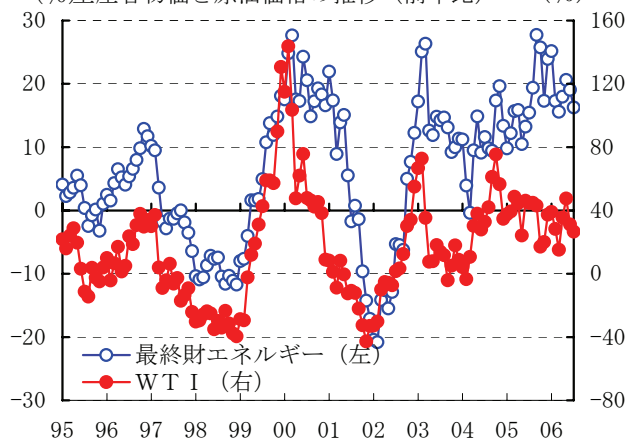
(%) 生産者物価（最終財）の推移
(3ヶ月移動平均、3ヶ月前対比年率)



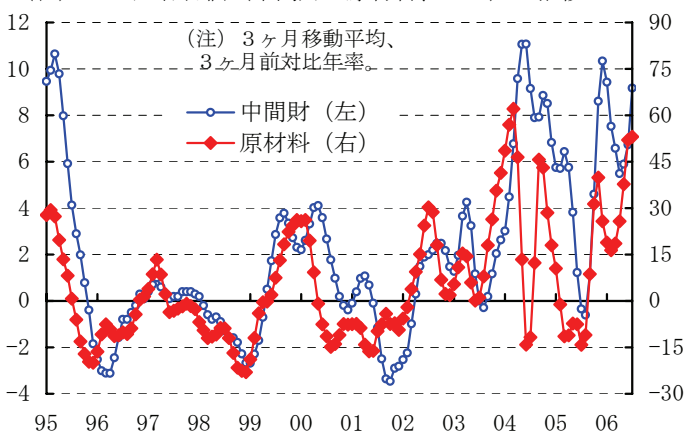
(%) 最終財生産者物価の推移(前年同期比)



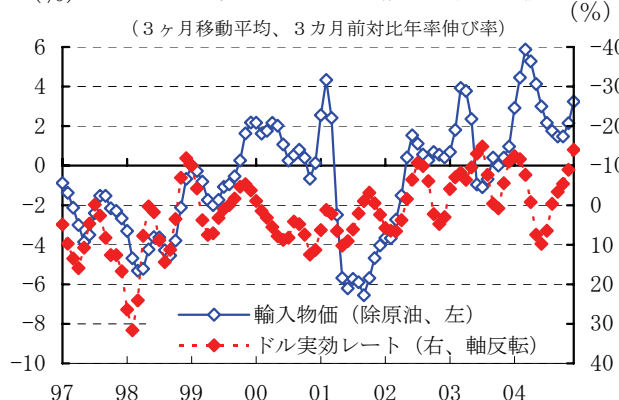
(%)生産者物価と原油価格の推移(前年比)



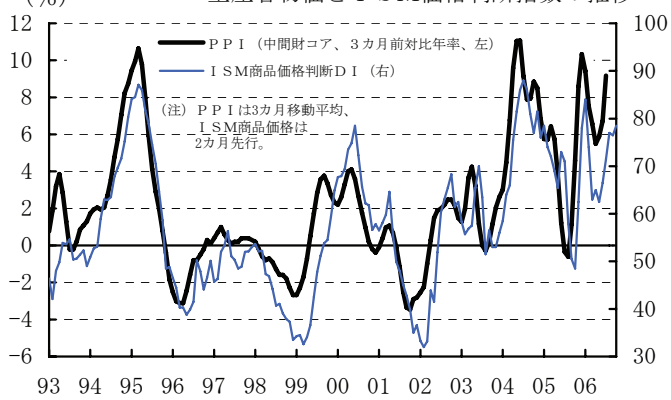
(%) 生産者物価（中間財・原材料、コア）の推移



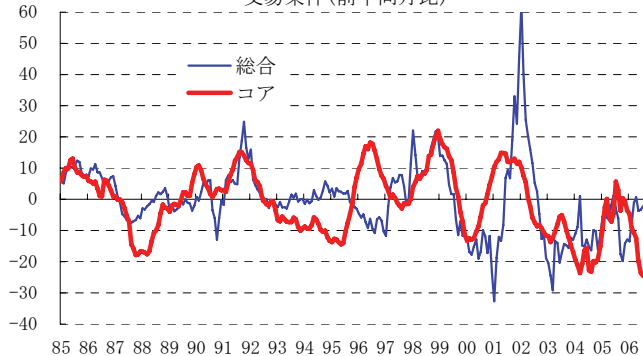
(%) 実効ドルレートと輸入物価の推移



(%) 生産者物価とISM価格判断指数の推移



(%) 交易条件(前年同月比)



ドル実効レート(月中平均)

